

<ウェブサイト公開用>

平成29年度第2回社会福祉審議会児童福祉専門分科会 議事要旨

日 時	平成29年7月20日（木） 午前9時30分～午前11時20分
場 所	総合庁舎11階会議室1
出席者	<p>（社会福祉審議会児童福祉専門分科会委員）</p> <p>井上寿美、遠藤加代子、中川千恵美、福田実加、森田信司、山田祥隆、吉田聖子</p> <p>（事務局）</p> <p>子どもすこやか部 奥野、菊地 子ども子育て室 川西 子ども家庭課 大川、宮脇、岩本 子ども見守り課 竹山 施設指導課 山口 子ども応援課 村野 子育て支援課 小櫻 保育室 浅井 福祉企画課 井上</p>
議 題	子どもの生活実態調査について
議事内容	<p>（開会）</p> <p>（委員・事務局紹介）</p> <p>【子どもの生活実態調査について】</p> <p>○事務局</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの生活実態調査の調査票について説明。 <p>○委員</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子ども向けの調査票の中に回答者の性別に関する問いで、「男子」「女子」「その他」とあるが、「その他」は「答えたくない」に含まれるのではないか。 <p>○事務局</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「その他」は大阪府の調査にもあるため、本市でも使用したい。 <p>○委員</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの貧困に関する調査として、配る対象をどのように考えているか。 <p>○事務局</p> <ul style="list-style-type: none"> ・送付の対象は住民基本台帳から無作為に抽出する。保護者向けの調査中の所得に関する問いから相対的貧困世帯を抽出し、貧困のデータとして活用したい。 <p>○委員</p>

- ・調査項目の増加が回収率に影響しないか心配。
- 事務局
 - ・この量は回答していただきたい。
- 委員
 - ・大阪府の回収率はどの程度か。
- 事務局
 - ・30台半ば
- 委員
 - ・この調査票は「保護者向け」「小中学生向け」「16・17歳向け」の3セットで送付するのか。
- 事務局
 - ・「保護者用」と「小中学生向け」または「16・17歳向け」の2セットで送付する。
- 委員
 - ・3割回収できたとすれば、東大阪市全世帯の何%になるか。
- 事務局
 - ・小学校5年生、中学校2年生は市内に4,000人強おり、その4分の1を抽出するため、30%回収できた場合、十数%になる。
- 委員
 - ・学校とタイアップして回収できないか。
- 事務局
 - ・サンプル数が少なく、学年やクラスが限られた調査となるため、学校での調査は難しい。
- 委員
 - ・東大阪市内の対象年齢全てに対して調査はできないのか。
- 事務局
 - ・予算の確保ができなかった。
- 委員
 - ・全世帯の10～15%で、集計したデータの信用度・信頼度は確保できるのか。

- 事務局
 - ・最低 10%あれば有効とのこと。
- 委員
 - ・学校側から協力を呼びかけてもらえるよう、お願いしてはどうか。
- 委員
 - ・調査票は抽出された一部の方にしか届かない中で、学校や広報で全世帯にお知らせすれば、疑問に思う方もいるのではないか。
- 委員
 - ・問題のある家庭と思われたから送付されたと感じる方もいるので、「無作為抽出」で行うことを周知すべきである。
- 事務局
 - ・調査票はお盆明けの 8 月 17 日頃発送予定。広報については 8 月 15 日号の「市政だより」で調査内容と封筒のイラストを載せて周知し、9 月 1 日号でも協力依頼を行う予定。また国民年金課が児童扶養手当の現況届の提出時期にポスターやチラシを置いてくれるとのこと。
- 委員
 - ・夏休み明けも回答期間中ですので、学校に調査票の協力依頼をお願いできないか。
- 事務局
 - ・相談の必要がある。
- 委員
 - ・協力依頼文が全世帯に調査票が配布されているような書き方になっていないか。
- 委員
 - ・協力依頼文は調査票が届いた方に見てもらうので、取り立てて「無作為抽出」と書く必要はない。
- 委員
 - ・「無作為に調査」という文言があれば、安心して回答できるのではないか。また高校生に向けて「子どもの施策にも役立てる」と記載し、子どもが回答する意味を伝える必要がある。

○委員

・協力依頼文には電話と FAX だけでなく、メールアドレスも記載してはどうか。

○委員

・子ども家庭課のお問い合わせフォームに着くようにする。

○委員

・「無作為」という言葉を使わずに依頼文の中で説明するのか、「無作為」という言葉を使うか考える必要がある。

○事務局

・検討する。

○委員

・最も聞きたい 16・17 歳が何か書いてみようと思える工夫が必要。

○委員

・イベント会場等で対面でのアンケートは難しいか。

○事務局

・大阪府の調査と比較するために、対象の抽出が難しいアンケート形式ではなく、無作為抽出での郵送調査を選んだ。16・17 歳への調査については、堺市が実施した際、回答率が 30%程あったので、本市でもその程度目指したい。

○委員

・ネット等で調査結果の公開は行うか。

○委員

・「いただいた意見については統計上処理してホームページで公開いたします」と記載するべき。

○委員

・「毎日の生活で感じていることを自由に書いてください」という問いに答えてくださった方に対して、市での取り組みを載せるべき。

○事務局

・時期は未定だが、単純集計・クロス集計の結果を掲載する予定。

○委員

・保護者向けの 14 ページの「②もし利用するなら、どのくらいの頻度で利用したいですか。」に対して回答をそろえてはどうか。

・「2. 週に 3～6 回程度」は回数の幅が広くないか。

○委員

・回答項目「2. 自転車で 30 分以内の場所」は校区外まで行けてしまうのではないか。

○委員

・中学校区であれば、15 分ほどで十分。

○委員

・「校区外から出てもいいとして」という文言があれば、子どもが答えやすいのではないか。

○委員

・利用したい時間・場所を尋ねているが、どの時間帯でも実施することを前提としているのか。または意見があった場合、その時間帯に子ども食堂を実施する予定をしているのか。

○事務局

・誰が主体で行うのかが今後の課題。ただ子ども食堂をしたいという問い合わせにお答えできるよう、統計的なデータを持っておきたいと考えている。

○委員

・祝日と日曜日は同じ認識か。ゴールデンウィークや正月休みのように連続する祝日が、食べられない子どもにとって厳しいところであるため、「祝日」を回答に追加するか、「日祝」とするかで回答が変わってくる。

○委員

・「長期休暇の期間」という記述が有効的。

○委員

・ゴールデンウィークや正月という選択肢が必要ではないか。

○事務局

・検討する。

○委員

- ・表紙に描かれている封筒と調査票の絵を分かりやすくすべき。
- ・保護者と子どもで色を分けることは可能か。
- 委員
 - ・子ども専用ダイヤルは調査票に記載してほしい。
 - ・学校では校区内で生活するように指導しているため、注意書きを加えてほしい。
 - ・フィードバックは項目毎に細かく記載するのか。
- 事務局
 - ・単純集計とクロス集計の2種類の結果を掲載する予定。
- 委員
 - ・答えにくい項目を回答していただいていることを考慮して、掲載するものを精査すべき。
- 委員
 - ・調査結果の報告は大阪府を参考にしてはどうか。
 - ・紙ベースのものを図書館等に用意し、閲覧しやすいようにすべき。
 - ・16・17歳用の調査票について「高校2年生相当」の表記はしないのか。
- 事務局
 - ・「高校2年生相当」は削除を検討している。
- 委員
 - ・居場所について、「大人の見守りがある場合」という追記はするつもりか。
- 事務局
 - ・検討する。
- 委員
 - ・アンケートとともに相談先や支援の一覧は同封するのか。
- 事務局
 - ・一緒に送付する。
- 〈資料の説明〉
- 委員
 - ・引きこもり等の相談先を知ってもらうことが必要。
 - ・QRコードを読み取れば、サイトに繋がるのか。

- 事務局
 - ・各担当課の制度のウェブサイトにつながり、細かな用件や必要な書類が確認できる。
- 委員
 - ・同封する「子ども・子育てに関する相談窓口一覧」は今回新たに作ったのか。
- 事務局
 - ・就学前の子どもが対象である「子ども子育て支援事業計画」をベースにしているが、就学後必要と考えられる相談先も新たに追加した。
- 委員
 - ・調査票と同じく、相談窓口一覧もふりがなが必要ではないか。
- 委員
 - ・相談窓口一覧は市庁舎に置かれているのか。
- 事務局
 - ・今回の調査のために作ったもののため、置いていない。
- 委員
 - ・保育所、幼稚園や小中学校に置かせてもらい、各自持ち帰られるようにするべき。
- 事務局
 - ・児童扶養手当の現況届のお知らせを送付する際にも、相談窓口一覧の一部抜粋したものを同封しているため、6000世帯には同じような情報提供ができています。
- 委員
 - ・相談窓口一覧には子どもが相談する窓口はないのか。
- 事務局
 - ・「子どもの悩み電話相談」や「いじめ・悩み 110 番」が子どもの相談窓口となっている。
 - ・子どもへの調査票の中に簡単に表記してはどうかという意見もある。
- 委員
 - ・引きこもりについては記載しないのか。

- 事務局
 - ・担当課と調整中であるが、記載予定である。
- 委員
 - ・教育委員会と警察が連携している窓口はなかったか。
- 事務局
 - ・調べてみる。
- 委員
 - ・携帯の犯罪に関する相談先も記載が必要。
- 委員
 - ・DVの相談窓口は16・17歳向けには必要である。
- 委員
 - ・女性の相談窓口を含めると、項目が増えてしまわないか。
- 事務局
 - ・DVや男女の相談窓口については、スペースの関係上あえて載せていない。
- 委員
 - ・DV相談にも応じているという記載は必要である。
- 委員
 - ・一覧に含めると見にくくなるため、中高生向けの調査票に記載してはどうか。
- 事務局
 - ・子どものDV相談については、「子どもの悩み電話相談」から必要な支援をしていくのがよいと考えている。
- 委員
 - ・一覧の最後に「その他の相談もお受けしている」と記載すべき。
- 委員
 - ・24時間対応しているDV等の相談窓口への連絡先も載せてほしい。
 - ・学校への協力依頼も検討してほしい。
- 【その他】**
- 事務局

・母子援助施設の応募については、応募がなかったため、今後については協議中。

・次回の開催は調査の集計後 10 月頃を予定している。

(閉会)